一般社団法人日本機械学会
標準事業表彰　過去受賞者リスト

受賞年度	受賞回	受賞種別	受賞者名	受賞者所属先・役職（いずれも，受賞時）	受賞業績名	受賞理由
2004	第1回	貢献賞	朝田 泰英	東京大学・名誉教授	発電用設備規格委員会の初代委員長として，民間自主規格の方向付け，規格作成の貢献され，維持規格2000年版，設計建設規格2001年版作成において指導的役割を果たされた功績	機械学会発電用設備規格委員会の立ち上げ(初代委員長)と同委員会における原子力・火力民間規格策定における指導的役割を果たし，規格基準の必要性を社会に理解させることに多大の貢献
2004	第1回	貢献賞	田村 章義	東京工業大学・名誉教授	標準化部会JISB0153「機械振動・衝撃用語」改正原案作成分科会主査 標準化部会JISB0905「回転機器の釣合い良さ-剛性ロータ」改正原案作成分科会主査	1960年代後半のISO/TC108関連国内活動の立ち上げ(つりあい試験研究会幹事，会長)から長期にわたる国際規格策定への貢献と指導的役割
2004	第1回	貢献賞	堤 正臣	東京農工大学・教授	工作機械分野におけるJIS規格原案作成等の標準化活動の推進・牽引	20年の長きにわたり，(社)日本工作機械工業会の標準化関連委員会委員長として50件の工作機械関連JIS規格の原案策定に尽力
2004	第1回	貢献賞	宮野 廣	東芝プラントシステム株式会社・執行役員	日本機械学会発電用火力設備規格の日本電気技術規格委員会による技術基準適合性の承認	機械学会発電用設備規格火力設備規格の省令適合性承認を実現させ，民間規格の認知獲得と地位向上に尽力
2004	第1回	国際功績賞	染谷 常雄	東京大学・名誉教授	我が国の滑り軸受に関する標準化活動の飛躍的発展への寄与	すべり軸受のISO規格，JIS規格策定と幹事国引き受け，新委員会の設置などの国際貢献を通じたわが国の地位向上に尽力
2004	第1回	国際功績賞	三輪 修三	青山学院大学・名誉教授	標準化活動母体(つりあい試験研究会，機械学会内ISO/TC108国内調査班)の設立と発展に寄与 ISO/TC108の指導的な活動(国際会議への多数回の出席，日本での2度の国際会議の開催('82東京，'91神戸) 機械振動関連規格の国内技術者への周知・普及への貢献	1960年代後半のISO/TC108関連国内活動の立ち上げから長期にわたる国際規格策定への貢献と指導的役割
2005	第2回	貢献賞	岩壷 卓三	関西大学・教授	ISO標準化事業，日本機械学会規準作成および国際規格に従う資格認証制度構築	長年に亘りISO活動(ISO/TC108)に取組み，多数の規格制定に多大な貢献をしたほかに日本機械学会の基準策定及び資格認証システム構築にも貢献した.
2005	第2回	貢献賞	渡部 修	筑波大学・教授	「日本機械学会発電用原子力設備規格策定への貢献」 原子力の法令改定化(性能規定化)の動きに伴い，国の要求である民間規格の迅速なる整備という急激な状況変化の中で，「原子力専門委員会」委員長として規格の策定，体系的整備をリードすると共に，「標準事業部会」部会長として普及活動を通し，民間規格策定における日本機械学会の認知および地位向上に多大の貢献	原子力専門委員会委員長として日本機械学会の基準策定に貢献し，標準の普及にも貢献した.
2005	第2回	国際功績賞	笠原 又一	オイレス工業株式会社・常勤監査役	(社)日本機械学会ISOTC123平軸受国内委員会幹事としての活動 ISO/TC123(滑り軸受)新規に獲得した分科会SC6(用語及び共通事項)の国際幹事としての活動 学会委員会等を支援するための「日本滑り軸受標準化協議会」の設立と常任幹事としての活動	ISO/TC123/SC6の国際幹事として会議の運営に尽力し，国際規格14件の修正提案の他に6件の新規提案を行った.
2005	第2回	国際功績賞	松下 修己	防衛大学校 教授	ISOTC108/SC2/WG7磁気軸受プロジェクトにおけるコンビーナ活動	ISO/TC108/SC2/WG7において，磁気軸受プロジェクトのコンビーナ活動に取組み，国際標準化プロジェクトのリーダを務め，三つの国際規格を完成段階に導いた.
2006	第3回	貢献賞	小野 京右	株式会社日立製作所・技術顧問	フレキシブルディスクと機械振動・衝撃のJIS原案作成と国際標準化の推進	ISO/TC108振動と衝撃の主査及びWG1の用語の主査として非常に長い間ISOの標準化に取り組み多大な貢献をした.
2006	第3回	国際功績賞	齋藤 格	日本原子力技術協会・部長	ASME(米国機械学会)規格委員会との交流とASME規格内容変更の日本の規格への反映	原子力発電プラントの規格化についてASMEとの交流及びASME規格内容の日本の規格への反映に貢献した.
2007	第4回	貢献賞	木村 文彦	東京大学・教授	CADのデータ交換の国際標準化であるSTEP規格の開発と普及に関する貢献	CADのデータ交換の国際標準化であるSTEP規格の開発と普及に貢献した.
2007	第4回	貢献賞	黒川 淳一	横浜国立大学・教授	水力機械に関するISO,IEC,JIS,JSME規格の改訂原案作成委員会・主査および審議委員として原案取纏めと有効活用に貢献	ポンプ，水車に関する国際，国内規格の制定に寄与し，また国内での普及と工業上の貢献をした.
2007	第4回	貢献賞	班目 春樹	東京大学・教授	日本機械学会基準S012,S017の制定における中心的役割と2003～2005年発電用設備規格委員会委員長として発電用設備規格制定に指導的役割を果たされた功績	本学会の該当分野の規格制定の中心的役割と発電用設備規格委員長として規格の制定を行い本分野の規格の普及に貢献した.
2007	第4回	国際功績賞	服部 修次	福井大学・教授	眼鏡フレームに関する標準化事業	眼鏡フレームの国際規格の制定及び国内JIS規格の制定に寄与し，地場産業の普及に多大の貢献をした.
2008	第5回	貢献賞	上野 滋	機械振興協会　理事	金属加工工作機械の性能向上に関る工業規格制定	長期にわたり国内・国際両面において，ものづくりの基盤分野である工作機械技術の標準化に広く貢献され，数多くの規格審議・策定に関わり，機械産業の業界への普及に尽力された.
2008	第5回	貢献賞	森下 正樹	日本原子力研究開発機構・ユニット長	発電用設備規格委員会・原子力専門委員会の委員長として発電用原子力設備規格の策定発行に貢献 米国機械学会原子力規格理事会の正式メンバーとして原子力規格高度化における日米協力に貢献	日本機械学会標準・規格ｾﾝﾀｰの発電用設備規格委員会・原子力専門委員会において，指導的役割を果たし，多くの発電用設備規格制定に大きく貢献された．また，ASMEやMDEPの規格開発活動においても活躍されている.

一般社団法人日本機械学会
標準事業表彰　過去受賞者リスト

受賞年度	受賞回	受賞種別	受賞者名	受賞者所属先・役職（いずれも，受賞時）	受賞業績名	受賞理由
2008	第5回	国際功績賞	岡本 裕	大同メタル工業株式会社・部長	ISO/TC/SC幹事国取得の活動,ISO原案の作成及び日本提案の推およびアジア太平洋地域における国際標準化活動支援	日本機械学会のISO/TC123国内委員会において先導的に活躍するとともに，ISOにおいてはTC123/SC6の設立を主導し国際幹事に就任するなど，日本が主導するTC123の国際標準化活動に顕著な功績をあげてこられた.
2008	第5回	国際功績賞	福田 好朗	法政大学　教授	生産システムの情報統合化に関する国際標準化活動への貢献	長年にわたり競争の厳しい産業オートメーション分野において，その国際標準化に関してリーダーとして積極的に取り組まれ，わが国の国際貢献度の向上に顕著な業績をあげてこられた.
2009	第6回	貢献賞	Winchester Gregory	Program Manager, National Electrical Manufacturers Association (NEMA),USA	日本提案の国際標準原案の作成・編集ならびに承認・普及への貢献	ISOの産業オートメーション分野の国際幹事として長年活躍し、日本提案の国際標準原案の作成、編集および承認、普及へ多大な貢献をした。
2009	第6回	貢献賞	森田 賢治	財団法人日本自動車研究所・主任研究員	HEV，重量HEVおよびPHEVの排出ガス・燃費試験方法の策定	電動車両（HEV,重量HEVおよびPHEV）の排ガス・燃費試験法を研究し、日米欧の技術基準およびISO国際標準の策定に貢献した。
2009	第6回	国際功績賞	水町 渉	独立行政法人原子力安全基盤機構・特認参事	世界の原子力発電所の被爆低減と我が国の新検査制度導入への国際活動	ISOEの共同事務局の議長として、原子力発電所の被爆低減に関する標準・規格の改善を促進し、原子力発電所の新検査制度に貢献した。
2009	第6回	コードエンジニア賞	重宗 克彦	関西電力株式会社・計画グループマネジャー	使用済燃料輸送・貯蔵用金属キャスクの燃料バスケット用新材料の事例規格提案・策定	使用済燃料輸送・貯蔵用金属キャスクの燃料バスケット用新材料の事例規格を日本機械学会発電用設備規格委員会に提案し、策定に貢献した。
2010	第7回	貢献賞	前田 節雄	近畿大学・教授	ISO/TC108(機械振動，衝撃と状態監視)SC4(機械振動・衝撃の人体への影響)での，国際規格のJIS化及び整合化に対する貢献	ISO/TC108 SC4（機械振動・衝撃の人体への影響）国内委員会の幹事・委員長を長年務め，ISOのJIS化と整合化に多大な貢献をした.
2010	第7回	貢献賞	小山 幸司	三菱重工業株式会社・専門主幹	発電用原子力設備規格の策定・改訂と普及活動ならびに規格委員会活動の活性化	発電用設備規格・原子力専門委員会の委員長として原子力設備規格の策定・改訂と普及活動並びに規格委員会活動の活性化に多大な貢献をした.
2010	第7回	貢献賞	西口 磯春	神奈川工科大学・教授	「火力設備配管減肉管理技術規格(JSMESTB1-2006)」の策定：2006年3月付けで発刊	発電用設備規格・火力専門委員会の委員長として火力設備規格の策定・改訂に多大な貢献をするとともに，火力設備配管減肉管理技術規格の策定に貢献.
2010	第7回	国際功績賞	萩原 正弥	名古屋工業大学・准教授	ねじ部品の機械的性質及び性能に関する国際規格の作成及び技術的協力に関する貢献	ねじ締付け試験方法に関するISO16407の規格原案を策定，また設計に関する技術レポートのプロジェクトリーダーを務めるなど，ISO/TC2（締結用部品）関連規格の策定・改訂に貢献した.
2010	第7回	国際功績賞	松田 三知子	神奈川工科大学・教授	国際標準原案作成における主導活動と国際交流活動での日本の国際地位向上への貢献	ISO/TC184/SC5/WG4(Manufacturing Software and Its Environment)のコンビナとして生産ソフトウェアに関する日本発の国際規格ISO16100シリーズの開発を主導し，多大な貢献をした.
2010	第7回	コードエンジニア賞	朝田 誠治	三菱重工業株式会社・主席技師	弾塑性FEM解析を用いた圧力容器設計規格の策定	JSME設計・建設規格の事例規格である「弾塑性有限要素法を用いたクラス１容器に対する強度評価法の代替規定」の規程内容のうち，設計建設規格の簡易弾塑性評価法およびその疲労評価への落とし込みの部分との整合をとった事例規格の規定内容を具体化するなど規格策定に関して主導的な役割を果たし，貢献した.
2011	第8回	貢献賞	清水 伸二	上智大学・教授	20年以上に亘る工作機械，ツーリングシステムのJIS規格制定，国際規格制定への貢献	工作機械関連およびツーリング関連のJIS規格原案作成・制定において，長年にわたりリーダーとして多大なる貢献をした．さらに同分野の国際標準化にも貢献した.
2011	第8回	貢献賞	平岡 弘之	神奈川工科大学・教授	製品モデル表現の国際規格ISO10303の開発に貢献，特に形状データ品質規格の開発を主導した.	ISO10303-59の策定をはじめとする産業用データ関連の国際標準化において多大なる貢献をした．また，ISO10303シリーズのJIS化および普及についても貢献している.
2011	第8回	国際功績賞	髙木 靖雄	東京都市大学・非常勤講師(元教授)	燃料電池自動車用水素燃料規格に関する国際規格(ISO14687-2)の策定	ISO/TC197/WG12(水素燃料仕様)のコンビナとしてISO14687-2の開発を主導し，日本が先行する同分野での国際的な産業の優位性確保に貢献した.
2011	第8回	コードエンジニア賞	（受賞者なし）	－	－	－
2012	第9回	貢献賞	荒井 栄司	大阪大学・教授	生産システムソフトウェアの国際規格および日本工業規格確立への貢献	ISO13281シリーズおよびISO16100 とそのJISの対応規格の開発・制定を通して，生産システムソフトウェアの国際規格および日本工業規格確立に長年貢献した.
2012	第9回	貢献賞	稲田 文夫	電力中央研究所・副所長	原子力プラント運転・保全における規格基準制定活動	研究活動をベースとして，原子力プラント運転・保全における規格基準制定活動に貢献し，その改善に向けたロードマップの作成と部門横断型の分科会活動を通して研究開発活動の推進にも貢献した.
2012	第9回	国際功績賞	斎藤 温	株式会社HGSTジャパン・主任技師	ﾘﾑｰﾊﾞﾌﾞﾙ型HDD(iVDR)技術規格の日本発国際標準化達成(ISO/IEC29171を2009/11新規制定)	ﾘﾑｰﾊﾞﾌﾞﾙ型HDD(iVDR)技術規格(ISO/IEC29171（2009/11）)の制定に当たり，そのためのコンソーシアムを立ち上げ，国際標準化活動を主導し，日本発の国際標準化の達成に多大なる貢献を果たした.

一般社団法人日本機械学会
標準事業表彰　過去受賞者リスト

受賞年度	受賞回	受賞種別	受賞者名	受賞者所属先・役職（いずれも，受賞時）	受賞業績名	受賞理由
2012	第9回	国際功績賞	山田 陽滋	名古屋大学・教授	サービスロボットの安全性に関する国際安全規格の推進	サービスロボットの安全性に関する安全規格の国際標準化の推進に主導的役割を果たし，ISO13482の規格化を実現するとともに，その安全規格の重要性の啓蒙活動にも貢献した．
2012	第9回	コードエンジニア賞	欅田 訓名理	三菱重工業株式会社・課長	発電用火力設備規格基本規定・詳細規定(非破壊検査，溶接施工法・溶接技量)の策定	2008年度版の基本規程に続いて，2012年度版では，発電用火力設備規格　基本規定・詳細規定（非破壊検査，溶接施工法・溶接技量）の策定に主導的な役割を果たし，その普及にも貢献した．
2012	第9回	コードエンジニア賞	米田 公俊	電力中央研究所・主任研究員	発電用設備規格「配管減肉管理に関する規格(2005年度版)」策定への寄与	発電用設備規格「配管減肉管理に関する規格（2005年度版）」策定に寄与するとともに，その改定作業にも貢献中であり，学会発表・講演を通しその普及にも寄与した．
2013	第10回	貢献賞	杉村 延広	大阪府立大学・教授	機構解析モデルおよびアセンブリモデルなどのSTEP規格の開発と普及に関する貢献	CADデータの交換に関する国際標準であるSTEP規格の国内対策委員として，主として機械組立品の設計，解析に必要な機構解析モデル，アセンブリモデルの国際委員会の主査を務め，規格開発，ISO文書の作成などに貢献した．
2013	第10回	貢献賞	浅山 泰	日本原子力研究開発機構・研究主席	高速炉規格の作成と国際標準化活動	2012年版設計・建設規格 第II編 高速炉規格の制定ではJSMEの分科会主査として貢献するとともに，システム化規格など規格体系の抜本的高度化検討などについてはJSMEのタスク主査，AMSEのタスクグループ主査として活動をリードした．
2013	第10回	国際功績賞	（推薦なし）	－	－	－
2013	第10回	コードエンジニア賞	永田 徹也	日立GEニュークリア・エナジー株式会社・主管技師	BWR鋼製格納容器に関するシビアアクシデント時の構造健全性評価ガイドラインの策定	福島第一原子力発電所の事故後に喫緊の課題となった原子炉格納容器の健全性確保について，タスク主査としてガイドライン策定に主体的役割を果たすとともに，原子力専門委員会副委員長としてASMEとの連携を図り，同ガイドラインを国際化レベルのものとした．
2014	第11回	貢献賞	宮口 治衛	株式会社IHI・技監	発電用設備規格全般の策定・整備に関する貢献	発電用設備規格委員会に参画し，発電用設備関連の規格の策定・整備活動に多大な貢献をしている．特に，沸騰水型原子力発電所配管減肉管理に関する技術規格等の制定に主執筆者として中核的な役割を果たしている．
2014	第11回	国際功績賞	木村 一弘	物質・材料研究機構・ユニット小長	高クロム鋼クリープ強度見直しによる発電用設備規格改正とASME規格への反映に関する貢献	発電用設備規格委員会火力専門委員会委員長などを務めるとともに，ASME規格基準委員会にも参画し，多大な貢献をしている．特に，高クロム鋼のための寿命評価式を策定し，この成果が日本電気協会における規程等に反映されている．
2014	第11回	国際功績賞	谷 和男	岐阜大学・名誉教授	ロボット分野における国際規格および日本工業規格の立案・制定に関する貢献	ISO/TC184/SC2および㈳日本産業用ロボット工業会において産業用ロボットの規格化活動に多大な貢献を行っている．特に，ISO 8373:2012，JIS B 0186:2003等，多数のISOおよびJIS規格の制定に貢献している．
2014	第11回	コードエンジニア賞	瀬良 健彦	関西電力株式会社・リーダー	発電用原子力設備規格「ｼﾋﾞｱｱｸｼﾃﾞﾝﾄ時の構造健全性評価ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ）」の策定への貢献	発電用設備規格委員会傘下のタスクの主査及び幹事として，当該規格の原案策定に多大な貢献をしている．特に，シビアアクシデント時の構造健全性評価ガイドライン等の規格の技術根拠の整備，規格原案策定などに貢献している．
2015	第12回	貢献賞	塩幡 宏規	茨城大学・名誉教授	ISO TC108（振動、衝撃、状態監視）規準策定及び関連規格のJIS化への貢献	10数年にわたって機械の振動，衝撃と診断に関する国際規格ISO/TC108及び関連するWG、SCを国内委員会委員長や主査として取りまとめ，国際会議では日本代表として10数回出席し，約60件のISOの標準化に貢献してきことや，現在，日本機械学会が進めている機械状態監視資格認証事業の基となるISO/TC108/SC5のISO2件をJIS化し，国際標準の普及に尽力し，多大な貢献をした．
2015	第12回	貢献賞	湯原 哲夫	一般財団法人キヤノングローバル戦略研究所・理事・研究主幹	発電用設備規格委員会全般の運営と指導に関する貢献	10数年にわたって発電用設備規格委員会委員や委員長を務め，同委員会に於ける指導的役割を担い、委員会活動の活性化並びに発電用設備規格の策定・整備活動の促進に尽力し，多大な貢献をした．
2015	第12回	国際功績賞	坂本 千秋	有限会社設計生産工学研究所・代表取締役	機械部品の工程設計からNCﾃﾞｰﾀ作成までを一貫して処理する国際標準の開発と普及に関する貢献	10数年にわたって，CNC（Computerized Numerical Control）データモデルやCAD(STEP)の国際標準を筆頭に，生産システムや産業オートメーションに関する国際標準ならびに日本工業規格の原案の作成，審議に携わり，主要国とともにISO規格の開発および制定の活動を行うと共に，日本工業規格の開発，普及，審議に尽力し，生産システム関連の標準化を実現し，多大な貢献をした．
2015	第12回	国際功績賞	増山 不二光	九州工業大学・特任教授	発電用設備規格、特に材料強度に関わる規格の策定、整備に対する貢献	発電設備用材料を専門にASME規格委員会委員として数十年にわたり活動を継続され，本会発電用設備規格委員会委員を通算８年以上も務め、材料専門委員会の構想、設置にも主体的に尽力し，多大な貢献をした．
2015	第12回	コードエンジニア賞	（受賞者なし）	－	－	－

一般社団法人日本機械学会
標準事業表彰　過去受賞者リスト

受賞年度	受賞回	受賞種別	受賞者名	受賞者所属先・役職（いずれも，受賞時）	受賞業績名	受賞理由
2016	第13回	貢献賞	高田　祥三	早稲田大学 創造理工学部 経営システム工学科 教授	製造自動化に関する参照モデルの開発および機械設備診断に関する標準化の推進	10数年にわたってISO/TC184/SC5の国際委員、国内対策委員長として、製造現場での生産標準化のための参照モデル（ISO/TR 10314）の開発、および規格開発が難しいと見られていた機械設備の診断と保守に関する標準（ISO 18435）の開発に携わり、生産システム分野の標準化の推進に多大に貢献した。
2016	第13回	貢献賞	高橋　由紀夫	（一財）電力中央研究所 主席研究員	発電用設備規格全般の策定、整備に対する貢献	1997年の発電用設備規格委員会の発足以来、原子力専門委員会の幹事、核融合専門委員会や材料専門委員会の副委員長・委員長、及び規格委員を歴任する等、発電用設備規格の整備に多大な貢献を果たした。核融合専門委員会での「超伝導マグネット構造規格」、材料専門委員会での、強度低減係数の導入や寿命評価式の規格化に多大に貢献した。
2016	第13回	貢献賞	藤田　正昭	三菱日立パワーシステムズ（株） ボイラ技術本部 ボイラ技術部 技監・技師長	発電用火力設備規格全般の策定、整備に対する貢献	火力プラント、特に材料・構造強度に関し豊富な経験と知見を有している。発電用設備規格委員会においても、火力専門委員会構造分科会の副主査を4年、火力専門委員会副委員長・幹事を14年務め、火力発電設備規格の構造設計部分の策定、その後の改定、民間規格評価機関及び規制官庁への技術説明に大きな貢献を果たしている。
2016	第13回	貢献賞	森脇　一郎	京都工芸繊維大学 機械工学系 教授	歯車に関するISO規格およびJIS規格策定への貢献	ISO/TC60の日本代表委員として負荷容量計算の基本規格（ISO 6336）策定作業に大きく寄与するとともに、JIS規格に関しては原案作成委員会の委員長として歯車製図（JIS B 0121）など数多くのJIS規格策定の取りまとめおよびその普及活動を行い、歯車に関する標準の策定および普及に多大に貢献した。
2016	第13回	国際功績賞	井原　之敏	大阪工業大学 工学部 機械工学科 教授	５軸マシニングセンタの精度検査に関するISO規格策定および普及への貢献	５軸マシニングセンタの精度検査に関するISO規格開発を提案し、同規格を審議するISO/TC39/SC2/WG3のコンビーナとしてこのISO規格（ISO 10791）の策定に大きく貢献した。さらに、同ISO規格のJIS原案の作成、工作機械メーカなどへの説明会の開催など普及活動にも尽力している。
2016	第13回	コードエンジニア賞	杉江　保彰	（一社）原子力安全推進協会 施設運営本部 技術運営部 規格・標準管理グループ 部長	発電用原子力設備溶接規格の策定、整備に対する貢献	発電用原子力設備規格、特に溶接規格の制定及び改定において、2005年から11年間にわたり一貫して中心的役割を担い、その貢献は極めて大きなものがある。同氏が担当した溶接規格の改定は115件におよび、原子力規制庁のエンドースに当たっても、技術説明の中心的役割を果たし、多大に貢献した。
2017	第14回	貢献賞	瀧口　克己	東京工業大学 名誉教授	コンクリート製原子炉格納容器に関するシビアアクシデント時の構造健全性評価ガイドライン	福島原子力発電所事故後、喫緊の課題となった原子炉格納容器の健全性確保に関して、重大事故時のコンクリート製格納容器の健全性評価ガイドライン策定のためのタスク主査をしてガイドライン策定の中心的役割を果たした。加えて、発電用設備規格委員会原子力専門委員会コンクリート製格納容器規格分科会の副主査として、コンクリート製原子炉格納容器規格の改訂にも多大な貢献をした。
2017	第14回	貢献賞	西岡　靖之	法政大学 デザイン工学部 システムデザイン学科 教授	生産計画・スケジューリングに関する情報記述の標準仕様の策定およびその国際標準化	製造業のIT化が加速し、生産計画やスケジューリングの重要性を増すなか、異なる業務ソフトウェアが業務データを共通解釈するための手段を提供するXMLベースプラットフォーム（略称PSLX）の開発・普及において中心的役割を果たすとともに、関連するIEC/ISO規格の策定にも我が国代表として参画し、PSLXの国際化などにも大きく貢献した。
2017	第14回	国際功績賞	高橋　智	首都大学東京 大学院 理工学研究科 機械工学専攻 准教授	タービン用遮熱コーティングの特性・健全性評価方法のJIS/ISO規格策定および普及への貢献	火力発電用ガスタービンの効率向上、温室効果ガス削減の主要技術である遮熱コーティングに関する標準の策定と普及において、長年、産学官を主導し、遮熱コーティングの健全性評価試験や基礎特性評価に関するJIS、ISO規格の制改定を実現した。この分野では、我が国が世界を主導しており、国内企業の優位性確保にも大きな貢献を果たした。
2017	第14回	国際功績賞	波木井　順一	東京電力ホールディングス（株） 原子力設備管理部 規格基準グループ グループマネージャー	ASMEとの連携によるJSME発電用設備規格の高度化と国際化	長年、発電用設備規格委員会の主要メンバー（現副委員長）として、Board of Governors等ASMEの幹部と緊密な関係を構築し、日本機械学会とASMEとの多方面にわたる協力関係の基礎を築いた。特に東日本大震災後は、ASME原子力規格基準理事会傘下に両機関共同でのTask Forceを起ち上げ、シビアアクシデントに関する一連の規格基準策定に大きく貢献した。
2017	第14回	コードエンジニア賞	伊藤　拓哉	(株)IHI 資源・エネルギー・環境事業領域　ボイラSBU 基本設計部 基本計画グループ 主査	高クロムの鋼クリープ強度低下の発電用火力設備規格への反映による保安向上	高クロム鋼は高効率火力発電を支える最重要材料であるが、長時間域でのクリープ強度の低下が判明し、許容引張応力見直しのニーズが高まった。被推薦者は、発電用設備規格委員会火力専門委員会の材料分科会の副主査として、このための改訂における主導的な役割を果たした。さらに日本電気技術規格委員会での省令適合性審査でも中心的な役割を果たし、機械学会規格の承認に大きく貢献した。